

プラス経験者の女子大生活躍！ 保育士のタマゴ“音楽隊”が 地域の児童館・幼稚園を訪問



京都女子大学児童学科の学生のうち、中学・高校での吹奏楽経験者の有志が中心となって「音楽隊」を結成。一期生六名、二期生十八名が授業の合間を縫って地域の児童館や幼稚園などへ訪問演奏を行っている（昨年度は十二会場で実施）。学外での演奏は音大生も行うが、音楽隊は幼児・小学生相手の手遊びや音楽ゲームなどを取り混ぜられるのが強み。

きっかけは二〇〇六年秋の学園祭で子ども向けイベントを行ったこと。これが好評となり、近隣の幼稚園や児童館から音楽会の依頼が舞い込んだ。この演奏後のアン

ケートなどで保護者から「子どもに音楽を聴かせたいが、本格的な演奏会には行きづらい」との声があり、主催者である児童館からも「予算面でプロ奏者への依頼は非常に難しい。来館者の数が読めないため大がかりなイベントの企画自体が困難」との事情を知らされたことから双方の要望に極力沿う形で音楽会作りを目指している。一会場は五〜十名で訪問、主催者が同大学から会場までの交通費と運搬費などを負担する。

フルート、クラリネット、オーボエ、トランペット、サクソフォーン、ホルン、ユーフォニウムなど管楽器は全て個人持ちだが、打楽器、鍵盤ハーモニカ、電子キーボード、エレクトーンSTAGEAなどは大学の備品。楽器の編成やアレンジについては同大学の深見友紀子教授がアドバイスしている。これまでの音楽隊の活動は深見教授のHPで紹介されている（www.ongakukyoutiku.com/kyotowu/ongakutai/）ほか、活動記録のDVDを京都市内の児童館に先頃配布したところ、早くも今年のクリスマス公演の申込が殺到しているとい

う。
(森)